

実践計画書

埼玉県三芳町立三芳中学校
校長 雪平定夫
学校企画担当 溝口文雄

1. 企画テーマ名称

知的障害学級で行う総合的な学習におけるインターネットの活用および情緒障害の遠隔教育

2. 企画のねらい

(1) 目的

- ・ 障害のある生徒でもインターネットを活用して総合的な学習を行い、豊かな学びを実現する。
- ・ コンピュータを活用した情緒障害の生徒に対する指導の可能性を広げる。

(2) 目標

- a. 知的障害教育における総合的な学習の時間において、コンピュータを活用した学習を展開し、情報収集等をインターネットを活用し、ワープロ等を駆使して学習のまとめを行い、プレゼンテーションソフトを使用して発表を行う。
- b. 心因性の情緒障害（不登校）生徒が初めて経験することや集団に適応できずに教室等に閉じこもる状況下において、体育館などから教室に無線LANによる生映像を配信して心理適応を進める。
- c. 心因性の情緒障害生徒の不登校状態が進む中、学級のホームページに学習ページを掲載して自宅でも学習を進めるようにしたり、E-mailによる教育相談に応じるなど遠隔教育を実施する。

3. 企画の概要

- (1)対象 特殊学級 1～3年生
(2)実施内容 下記の計画に基づき実施する

4. 実施計画

(1) 総合的な学習の時間（以下、総合学習）授業計画

～インターネットを活用した教育～

本年度の総合学習のテーマは「進路」である。障害のある生徒にとって進路は想像の域を超えた学習になる心配があるため、体験することは学習を進める上で必須条件である。生徒にとってわかりやすいものは、現場の見学、次に図鑑や写真などの資料、そして先生や先輩の話などである。障害を持つ生徒にとってインターネットは文字が多く、写真が少ないため、生徒にとってよほど興味があるホームページか、漢字を読むことに慣れている生徒でないと興味を持って見ることはない。そのため、生徒が興味をもってインターネットを見るための工夫をしなければならない。その上で行事などの事前事後学習として取り組んでいきたい。

進路学習の展開

将来の進路を考える上で職場体験を中心に、上級学校への訪問を含めた進路学習を展開する。以下の単元計画は前期「将来の仕事を考えよう」の計画である。

	学 習 課 程	留 意 点
はじめ	h進路について h将来の生活	・ 将来の職業は単なるあこがれでよいが、仕事の姿を感じられる学習を目指す。
展 開	h将来の職業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就きたい職業 ・ 企業の仕事内容 h職業体験 <ul style="list-style-type: none"> 職場見学 <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学先の職業の概要 ・ 職場アンケートの内容を考える ・ 見学 ・ 見学のまとめ(インターネット) 職場実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場実習の概要 ・ 実習 体験のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校と会社の違い ・ 仕事の楽しさ、つらさとは ・ 職場アンケートのまとめ 	・ 職場見学時のマナー学習により保護された環境での生活から、厳しい社会に出ていくことを意識させる。 ・ 将来希望する職業と実際に体験する仕事は異なるが、体験を通して自己の可能性を知る。 ・ 発表できる形にまとめる時間を十分確保する。
ま と め	h職業についてのまとめ 将来の職業、体験した仕事、仕事についての感想 発表用のまとめ	・ 発表の事前学習を十分確保し表現力の育成を図る。

年間の実施スケジュール

年間を通して総合学習の時間を1時間使うと共に、その前の時間を使って2時間連続で体験や発表練習などを行う。年間の時間数は50時間以内の予定である。

期 日	学 習 内 容
4/19,4/26,5/10,5/24	基礎学習、テーマの設定
5/31,6/7,6/14,	調べ学習(職場見学)
6/18~7/6	職場体験実習
6/28,7/5,7/12,9/6,9/13	まとめ、発表準備(実習のお礼の手紙)
9/14	文化祭 = 総合学習前期発表

9/20,9/27,10/4,10/11,10/18	前期まとめ、後期テーマ設定、調べ学習
11/6~8	2年生3DAYS Challenge（職場体験）
11/15,11/22,11/29,12/13	調べる、体験する。和光南養護学校見学。 卒業生を囲む会（進路講演会）
1/10,1/17,1/24,1/31,2/7	まとめ、発表準備
2/15	後期発表
2/21,2/28	後期まとめ

（２）情緒障害生徒の遠隔教育

本学級の情緒障害生徒は自閉症タイプは在籍していない。心因性の情緒障害（不登校）であり、集団不適応に陥るなど落ち込んだときの自己の感情をコントロールすることが難しいタイプである。また、軽い知的な遅れを併せ持つためにきめ細かな学習指導が必要だが、保護者が本学級への入級を決心した直接の要因は情緒障害である。生徒達は、特殊学級入級後に通常学級にいたときのあつれきが減少し、楽しく登校することが多くなったが、通常学級との交流に参加できなかつたり、不登校の影響を1年以上持ち続けていて負担に感じることがあると欠席する傾向を示す生徒がいる。そうした生徒の負担を減少させるために、コンピュータを活用しながら、行動療法の手法を応用した遠隔教育を行う。

校内行事のライブ中継

通常学級と一緒にを行う行事に対して不適応を示す生徒にとっては、同じクラスの生徒が全校の集団にとけ込んでいるときに一人だけ何もしないで教室にいることは、不適応の自己につらさを感じて欠席することがある。そうした心理状態を改善するために、学校行事をライブ中継して教室で見学することで少しは参加しているような気持ちになったり、行事の様子を見ることで参加することの可能性を自ら見出すことができるよう働きかけるのである。しかし、本校は各教室用のテレビやテレビ用の放送設備がないためライブ中継ができない。そこで、体育館などから教室に携帯電話などを媒介にして生映像を配信し、次第の会場に慣れていくような心理適応を進めることにした。

【校内のライブ中継】

	理科室階段	wc		階段	wc	コンピュータ室	
体育館	3-1	3-2	3-3	放送室	作業室	本学級会議	職員室

【有線LAN、及びコンピュータの設置】

- ・職員室のハブから有線LANを本学級まで設置する。
- ・本学級の壁面に無線LANアクセスポイントを設置する。
- ・本学級内に2台のノートPCを配備し、無線LANカードで情報を取り扱う。

【体育館との情報のやりとり】

体育館までの電話線がなく、有線LAN、無線LANアンテナの設置は予算不足のため、PHSを利用したライブ中継を行う。

- ノートPC1台を体育館に移動してCCDカメラで行事を撮影する。
- PHSを使いストリーミングライブ放送を配信する。
- 教室のノートPCで放送を受信する。

不登校時の自宅学習の充実

心因性の情緒障害生徒の不登校状態が進む中、学級のホームページに学習ページを掲載して自宅でも学習を進めるようにしたり、E-mailによる教育相談に応じるなど遠隔教育を実施する。

- 学級のホームページに学習ページを加える。
- E-mail「けやきメール」のアドレスを設置する。

5. 実施体制

(1) 実施体制

学校内の体制

研究の主体は特殊学級であるため全校的な体制ではなく、通常の学級と連動しての学習は基本的には行わない。しかし、学校行事の撮影時、無線LANの配備、接続、学校のホームページへの書き込み等の準備や撮影に関して教職員の協力を得る。

校外の協力体制

本計画の協力は

- a. 総合学習の職場見学、職場実習先の企業に応援をお願いする。
- b. NPO「環境学習研究会」に総合的な学習の企画、運営の協力をお願いする。
- c. 総合学習における生徒の移動については、交通不便な土地へ移動する時は保護者の協力を得る。

(2) 実施環境（購入する機器、機材等）

コンピュータシステム 2台のノートPC

ネットワーク 校内無線LAN及び、有線LAN

ソフトウェア HP読み上げソフトHPひらがな表示ソフト（プリインストール）
メーラー、プレゼンテーションソフト

周辺機器 CCDカメラ2台、マウス2台